

梅雨が明けてまた暑い夏がやってきました
すっかり忘れていた朝顔がまた美しい花を
咲かせてくれるでしょう
自然の営みは着実に、強いものがあります

< 第 1 3 回 ほほえみの会 >

今回は参加者十数人と少なかったものの、総会の新聞記事を見て参加されたほかの病院の方もいました。県内では親の会は一つだけで、同じ悩みを持つ方にはほかの病院の方でも自由に参加していただきたいと思います。その後、7/7のFMラジオ「K-MIX」7/20の「静岡新聞」でも取り上げていただきました。また今、沼津市立病院でも親の会設立の動きがあるようです。

日本財団のボランティア基金でパソコンを購入しました。早速この会報を作っていますが、使いこなすのに一苦労です。今後、全国の同様の会との連絡や情報収集のためインターネットにも加入する予定ですが、パソコンに詳しい方がいましたら困ったときにいろいろ教えてください。お知らせください。

1歳半、神経芽腫で入院して60日、2回の治療をしたが治療以外の時は元気いっぱい本当に病気かと思う。末梢血幹細胞は早い治療の内に採取した方がいいということで、既に2回目の時に採った。しかし、腫瘍が大きく普通とタイプが違うと聞いているので不安。

頭の中の腫瘍だったが骨髄移植の後、今は元気に学校へ通っている。しかし、顔面神経麻痺が残った。そのことで友達に意地悪を言われ元気がなかった。翌日先生が学活の授業で1時間取り上げ、話し合ってくれた。それで本人は明るくなった。

19歳の息子が悪性リンパ腫で焼津の病院に4月入院した。治療について先生は順調だと言うだけで何の説明もしてくれない。髪の毛が抜けたり、爪や背骨が痛いという副作用のことや、薬について教えてほしいと言っても教えてくれない。なぜ子供の状態を話してくれないのかと問うと「血液科は1人の医師で60人を診ている。とても1人1人に説明をしてもらえない」という。

先生から説明がないということはこども病院では考えられないことですが、日頃もやもやしていた気持ちを話せただけでも気持ちが楽になった様子でした。

“インフォームドコンセント”

患者が「十分に説明を受ける権利」と「説明に基づく同意」を重視する考え。医療などが医師側の都合だけで行われると、患者の権利が侵害される。また患者の協力なしには効果の上がらない治療も少なくない。そこで患者が医師から医療内容を詳しく知らされ、納得した上で治療を進めることが必要とされている。欧米では普及しているが日本でも最近注目されている。

「治療が終わって無事退院できたが、家になると再発が心配でならない。」という悩みをお持ちの方がいます。同じ思いの方も多いと思いますが、何かいい解決策や気持ちを楽にする方法のある方は次回の会で是非教えてください。

次回のほほえみの会は
8月11日(日) 12時 新館3階第2教室です

多くの方から寄付をいただきました。次回まとめてご紹介します。新しく導入したパソコンに不慣れで発行が遅れましたことをお詫びいたします。